

一般質問

■文化観光の取組みについて

文化観光の積極的な取り組みを！

質

文化庁が京都へ移転したことを機に、文化観光推進本部が新設し、これを受け石川県も部局横断型の推進本部の設置を行っている。

そういった中、当市の文化観光の取組みについて、どのように捉え、今後どういった点を重視していくのか考えを伺う。

答

文化観光とは、文化の歴史や魅力を伝え、観光事業者らと協力しながら誘客を図り、地域を活性化させ、そこで得た収益を文化財等に投資することで、さらに文化の魅力を発信できると考えている。文化観光の推進には、文化財や祭り文化、伝統技術が保存・継承されていくことが必要であると考える。また、観光客が祭りに参加することも文化観光ではないかと考えている。

関係者におかれては、地域の文化観光を推進する上で、様々な支援事業を活用して、後継者の育成等にも御協力をいただきたいと考えている。

市としても、交流人口の拡大に向け、文化の保存と発展を図りながら観光振興に努めていきたいと考えている。



中西 庸介 議員 (新政会)



和倉温泉お祭り会館



木下 敬夫 議員 (あすなろ)



一般質問

■珠洲市の災害こみの受け入れについて

積極的な働きかけを！

質

珠洲市の災害こみの受け入れ状況について、6月2日の新聞報道で、金沢市が珠洲市の災害こみの一部である畳5千枚を市内のエネルギーセンターで焼却し、運搬及び焼却費用は珠洲市が負担するという記事が出ており、七尾市や輪島市も受け入れる方針であると大きな見出しで取り上げられていた。

七尾市では要請があれば受け入れる方針であり、リサイクルセンターの処理能力にも問題なく、地元の了解も得ているとの記事であったが、珠洲市に対してもっと積極的に働きかけても問題はないのではないか。改めて、七尾市の受け入れ方針と現在の状況について伺う。

答

珠洲市の災害こみの受け入れ方針について、要請があれば受け入れるということを、県を通して珠洲市に伝えている。現在もその方針に変更はなく、珠洲市のほうで適時処理を検討しているものと思われる。

一般質問

■「町会運営」「みどりと食料」に関する地域・市民の声について

町会への持続的な活動・運営支援を！

質

町会会員の高齢化が進む現状で、町会運営に生じている様々な支障に対して、どのように考え、市として具体的な対策、取組みを考えているのか伺う。農林水産省が進める持続可能な食料生産、供給、消費環境を整える「みどりの食料システム戦略」に基づく県の計画、その計画に伴う市の今後の取組みを伺う。

答

役員の高齢化、担い手の確保など運営に支障が生じている町会もあるものと推察している。このような状況を踏まえ、まずは各町会で持続的なコミュニケーション形成のため、自主的に課題の解決や、町会連合会や地域づくり協議会の枠組みの中で考えていただくことが必要であると考えている。その上で、行政として、支援の要請や相談があれば個別具体的に対応し、財政的支援については、その必要性を十分に検討した上で、判断していくことになるかと考えている。

有機農産物は、作業負担が大きいことから、取組者数や取組面積を拡大することは容易ではなく、必要量の確保が難しいのが現状である。その中で、化学農薬や化学肥料を5割以上削減する環境保全型農業直接支払交付金事業を引き続き推進し、有機農業の拡大につなげていきたい。

市としては、引き続き県やJA、農業者、各種団体と連携しながら、国が進める環境に優しい農業の推進と、そこから取れる農産物の食育活動を通して、取組者数の増加や生産拡大につなげたいと考えている。



山崎 智之 議員 (灘会)

